

「新型コロナ肺炎(感染症名 COVID-19)」は、新型コロナウイルス(ウイルス名 SARS-CoV-2)がヒトからヒトへ「飛沫感染」して発症します。

まだわかっていないことが多いのですが、重症化する患者さんは、風邪(喉の痛みや発熱、鼻から喉までの炎症、上気道炎)のような症状から肺炎(気道から肺までの炎症の一種である下気道炎)へと移行してしまうようです。

感染者の体内からウイルスが出るときは「飛沫(水分)」に包まれて飛び出します。  
感染者が咳き込むと、計算上、ウイルスを含んだ飛沫(水分)は2 m弱ぐらい先にまで飛んでいきます。このとき飛沫に含まれたウイルスを医療用語で「飛沫核」といいます。飛沫感染するウイルスの場合、飛び出た飛沫の水分が蒸発してしまうと、飛沫核(ウイルス)は病原性(感染力)もなくなります。 新型コロナウイルスは、大変小さいので、換気することで蒸発して伝染性を失います。

カゼやインフルエンザも同様ですが、身体の入り口(目、鼻、口)にウイルスが侵入する経路は、ほとんどは「手から口(鼻、目)」です。くしゃみ、せき、唾液、あるいは汗、排泄物など、感染者の身体から出た「飛沫(ウイルス入りの水分)」は、患者を治療しているお医者さん以外は、通常、直接、相手の顔にかかることは稀です。感染症の医療関係者が高密度の医療用マスクをしているのもうなずけます。手術用マスクなども同じ原理です。

飛沫が「何か」(つり革や手すり等)に付着して、さらにそれを触った人の手につく。そして、ウイルスがついた手で目や口、鼻まわりを触ったことで、ウイルスが顔まわりに移動し、それを体内に吸い込んでしまって増殖していくのです。

「人間は、5分に1回ぐらいは無意識に顔に手をもっていくようです。目をかいたり鼻を触ったり口に手をやったり。だから、ウイルスが人間の身体に侵入する経路として一番危ないのは手、なのだそうです。」

「手で顔を触ったって言っても、口を直接触ったわけではないのに……」と思うかもしれませんが、人間は呼吸する生き物です。人間は口と鼻からたくさんの空気(微粒子)を吸い込んでいるのです。ウイルスはとても小さいので、口や鼻の近くについていれば、呼吸する力で吸い込まれてしまいます。

カラオケボックスは熱唱(つば飛ばし)、マイク使い回し、密室で食事、と感染危険要素がたくさんあります。

北海道で感染者が多いのも、真冬の北海道ではなかなか「換気」ができないからかもしれません。

コロナウイルスはふわふわ漂ったりしないので、気分転換にもなる「散歩」はいいかもしれません。外出後に石鹸による手洗いやアルコールによる手指消毒も大切です。